
中国情報（畜産）

2007年4月4日号

◎2006年における中国の家禽肉市場情勢分析

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2006年における中国の家禽肉市場情勢の分析結果について発表した。その概要は以下のとおりである。

2006年は、中国の家禽肉生産量は増加したものの、家禽飼養の収益性は増減が激しかった。ブロイラー配合飼料価格は小幅な下落を示した一方、ブロイラーのヒナ価格は底上げが強く、通年の騰落幅が大きかった。上半期には、鶏肉（丸どり）と生きた鶏の価格が下落して底入れし、下半期に入って反発したものの、通年の平均価格は前年に比べ下落した。家禽製品の輸出入はともに増加して貿易黒字を維持した。また、国際市場における家禽肉生産量も回復し始め、貿易量も増加した。

1 家禽生産は減少の後に増加、収益性は増減幅が大

2006年上半期の家禽飼養羽数は減少したが、生産量は安定的に推移した。業界統計によると、上半期の家禽飼養羽数は前年比3.4%減となったが、出荷羽数及び家禽肉生産量は、ともに同0.7%増となった。通年では、出荷・生産量は若干増加した。

上半期の家禽飼養の収益は大幅に減少し、一部地域ではブロイラー1羽当たり2元（約30円：1元＝15.2円（2006年末相場））前後の赤字が発生した。しかし、その後の家禽肉需要の高まりに伴い、下半期は家禽飼養農家に有利な状況となり、ブロイラー1羽当たり2～3元（約30～46円）前後の利益が発生して年間の損益が相殺され、農家の飼養意欲も向上した。

2 家禽製品は輸出入とも増加し、貿易黒字を維持

2006年の中国の家禽製品輸出額は前年比1.96%増の9.32億ドル（約1,118億円：1ドル＝120円（2006年末相場））であった。そのうち家禽肉及び副産物が占める割合は17.92%、家禽加工品が78.68%、生きた家禽（種禽を除く）が3.39%であった。また、家禽製

品の輸入額は前年比 37.08%増の 4.81 億ドル（約 577 億円）で、そのうち家禽肉及び副産物が占める割合は 96.22%、家禽加工品が 0.55%、種禽が 3.23%であった。

(1) 家禽肉及び副産物の輸出は減少、輸入は増加

2006 年の家禽肉及び副産物の輸出量は前年比 13.65%減の 13.60 万トン、輸出額は同 14.06%減の 1.67 億ドル（約 200 億円）となった。主要輸出相手先は香港特別行政区、バーレーン及びマカオ特別行政区で、全体量の 93.05%を占めている。

一方、輸入量は前年比 55.16%増の 58.85 万トン、輸入額は同 39.61%増の 4.62 億ドル（約 554 億円）となった。主要輸入相手先は米国、ブラジルで、両国からの輸入額は 4.28 億ドル（約 514 億円）となり、全体額の 92.64%を占めている。

(2) 家禽加工品の輸出は増加

2006 年の家禽加工品輸出量は前年比 9.53%増の 23.65 万トン、輸出額は同 7.47%増の 7.33 億ドル（約 880 億円）となった。主要輸出相手先は日本、韓国及び香港特別行政区で、その合計輸出額は全体額の 96.49%を占めている。主な輸出省は山東省、遼寧省であった。

(3) 生きた家禽の輸出は減少、種禽輸入量も減少

2006 年の生きた家禽（種禽を除く）輸出量は前年比 24.0%減の 1,899.40 万羽、輸出額は同 15.32%減の 3,164.47 万ドル（約 38 億円）となった。中国の生きた家禽は、すべて香港・マカオの特別行政区に輸出されている。そのうち、香港向けは 2,421.32 万ドル（約 29 億円）であった。主な輸出省は広東省で、生きた家禽の輸出額全体の 96.88%を占めている。

種禽の輸入量は、前年比 24.22%減の 99.96 万羽で、輸入額は同 13.01%減の 1,551.70 万ドル（約 19 億円）となった。主要輸入相手先は、米国及びオランダであった。

3 国内の都市部住民の家禽肉消費分析

2006 年における中国の都市部住民の家禽肉購入量と消費量は、前年に比べかなり減少した。1～11 月の全国都市部における 1 人当たりの家禽肉購入量は、前年同期比 9.96%減の 7.68 kgとなった。そのうち、鶏肉購入量は同 12.90%減の 4.32 kg、アヒル肉は同 3.87%減の 1.49 kgとなった。

一方、2006 年の都市部住民 1 人 1 ヶ月当たりの家禽肉購入量は、平均減少幅が 16%に達し、1 人 1 ヶ月当たりの家禽肉消費量は 1 kgに満たなかった。これは、ここ数年間見られなかったことである。地域別には、広東省と広西チワン族自治区が 1 人 1 ヶ月当たりの家禽肉購入量が 0.94 kgでトップの座にあり、次いで海南省が 0.82 kgとなった。最も低かったのは山西省の 0.13 kgであった。家禽肉消費量が減少した主な原因は、2005 年下半期

に一部の地域で発生した鳥インフルエンザの影響により、2006 年上半期の消費意欲が低く、下半期には状況が好転したものの、通年では家禽肉の消費水準が例年に比べ低かったことにある。

4 中国の家禽肉及び関連品価格分析

(1) 下半期の家禽肉価格は大幅に上昇、通年では前年安

鶏肉（丸どり）と生きた鶏の価格は大幅に上下、通年では前年安となった。2006 年上半期の家禽製品価格は低落を続け、4 月には年内最低となり、1 月に比べ 4.51%安、前年同月比 16.93%安となった。同じく鶏肉（丸どり）価格は 1 月に比べ 4.14%安、前年同月比 14.00%となった。5 月になると家禽製品の価格が底上げし、12 月には年内最高となった。12 月に最高となった生きた鶏の価格は、最低だった 4 月に比べ 25.32%高で、前年同月比 28.49%高となった。鶏肉（丸どり）の 12 月の価格は、最低だった 4 月に比べ 21.50%高、前年同月比 25.84%となった。

2006 年下半期には、生きた鶏及び鶏肉（丸どり）価格は大幅に上昇したが、上半期は価格が低落し、通年の平均価格は前年を割り込んだ。2006 年の鶏肉（丸どり）の平均価格は、前年比 4.73%安の 1 kg 当たり 10.27 元（約 156 円）、生きた鶏の平均価格は、同 5.68%安の 1 kg 当たり 10.23 元（約 155 円）となった。

(2) ブロイラーヒナ価格は下半期に強く反発するも、通年では前年安

2006 年 2 月からブロイラーヒナ価格は下落を続け、5 月には年内最低となる 1 羽当たり 1.38 元（約 21 円）となった。6 月には価格が反発し、12 月末には、最近数年間で最高となる 1 羽当たり 2.68 元（約 41 円）に達した。2006 年のブロイラーヒナ価格は騰落が激しく、年間平均では前年比 10.78%安の 1 羽当たり 1.89 元（約 29 円）となった。主産地におけるブロイラーヒナ価格は、前年比 2.51%安の 1 羽当たり 1.95 元（約 30 円）となった。

(3) 配合飼料価格は前年比を下回るも、下げ幅は小

2006 年の中国のブロイラー配合飼料価格は、前年比 2.25%安の 1 kg 当たり 2.10 元（約 32 円）となった。主産地における平均価格は同 1.82%安の 2.08 元（約 32 円）であった。下半期の飼料価格は、安定しつつも上昇した。

5 国際市場情勢分析

(1) 国際市場家禽肉価格

米国の家禽肉価格は前年安：2005 年 9 月以降、米国の家禽肉価格は下落を続け、2006

年4月には下げ止まって回復傾向にあったが、以前の価格水準にまでは至っていない。2006年の米国12都市（ボストン、シカゴ、シンシナティー、クリーブランド、デンバー、デトロイト、ロサンゼルス、ニューヨーク、フィラデルフィア、ピッツバーグ、セントルイス及びサンフランシスコ）における鶏肉（丸どり）平均価格は、前年比9.30%安の1ポンド当たり64.32セント（約77円）であった。また、ジョージア州における鶏肉平均価格は、同6.37%安の1ポンド当たり68.22セント（約82円）であった。米国における家禽肉価格下落の主要因は、2005年末に発生した鳥インフルエンザの影響によって輸出が減少し、在庫が増加した上、2006年上半期の家禽肉生産量が前年同期に比べて増加したことにあるといわれる。しかし、2006年下半期は、生産・輸出とも増加し、家禽肉価格は小幅ながら上昇した。

ロシアの鶏肉価格水準は、下落のち上昇：2006年のロシアの家禽肉価格は、前年比1.03%安の1kg当たり60.07ルーブル（約288円：1ルーブル=4.8円（2006年末相場））となった。第4四半期の家禽肉価格は同62.21ルーブル（約299円）であり、第3四半期に比べ9.45%高となったが、前年同期比では3.75%安となった。総体的には、ロシアの家禽肉価格は上半期には下落傾向で、7月に価格が反発、12月末まで上昇が続いた。2006年のロシアの家禽肉生産量は比較的速いペースで増加したため、自給能力が增強され、輸入は減少したものの、需要は安定的で、価格は比較的高水準で推移した。

日本の家禽肉需要は増加、価格も上昇：冬が近づくに連れ、日本の消費者の鶏肉需要は徐々に高まっていった。2006年12月28日の東京地区における鶏モモ肉の取引価格は、前年同期比7%高の1kg当たり686円となった。2006年末の日本の鶏肉在庫は十分量が確保され、消費者の通常需要に十分に応え得る分量であったが、同時に加工向け鶏肉需要も大幅に高まったため、全体に価格は上昇傾向で安定した。

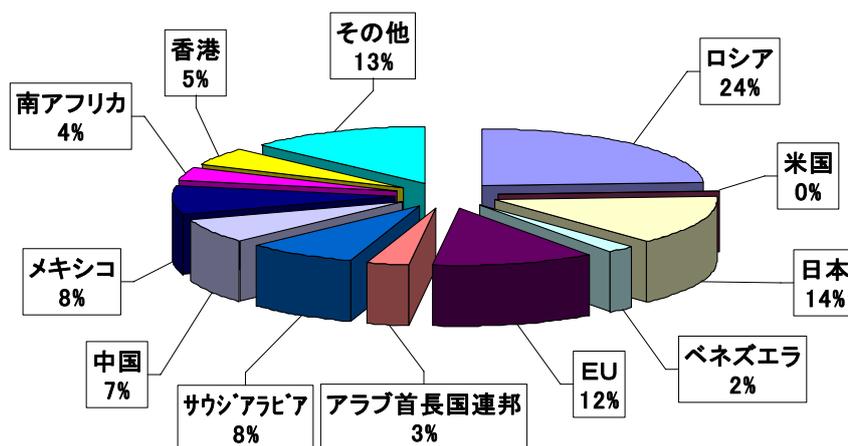
EUの家禽肉価格は全体に低水準：鳥インフルエンザ発生の影響を受け、2006年のEUにおける鶏肉消費は減少が明瞭で、消費は全体として1.3%減となった。ギリシャとイタリアでは、消費が各々90%及び70%も減少した。これら消費の減退は在庫の増加を招き、EUの家禽肉価格は低落が続いたものの、2007年上半期には好転するものと予測されている。

（2）生産・貿易分析

2006年における世界の家禽肉生産量は、前年比1.09%増の8,310万トンとなった。国際市場における家禽肉消費は徐々に回復する傾向にあり、2007年の家禽肉生産量は同2.89%増の8,550万トンと予測されている。家禽肉生産量は、発展途上国・先進国とも増加するとみられ、特に米国の家禽肉生産量は、国際市場価格が比較的高水準にあるこ

とや、伝統的な輸出相手先であるEUや中東の家禽肉消費が早いペースで増加していることなどを背景に、前年比5%増と予測されている。

2006年世界主要国の家禽肉輸入状況

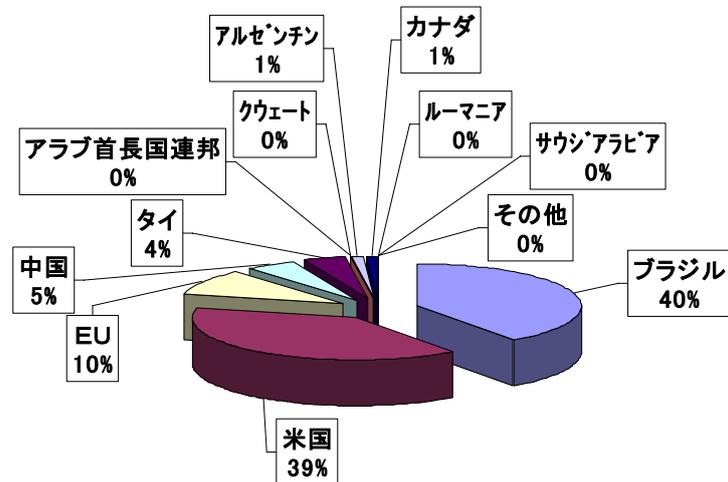


資料：中国農業部

2006年は鳥インフルエンザの影響で、世界の家禽肉貿易量は前年比2.38%減の820万トンとなった。2007年は同6.1%増の870万トンと予測されている。世界の家禽肉消費量は8,540万トンで、アフリカや中東などの輸入が回復し、ブラジル、米国などの家禽肉の輸出大国からの輸出量が増加するとみられている。また、アジアにおける家禽肉輸入は引き続き増加する一方、ロシアは、家禽肉の輸入停止解禁になお不確定要素があることや、国内の家禽肉生産量の増加が明らかであることなどから、家禽肉輸入は減少するものと予測されている。

また、2006年の米国の家禽肉生産量は、前年比1.23%増の357.99億ポンドであった。そのうち、第4四半期の生産量は前年同期比0.6%の88.5億ポンドであった。2007年第1四半期の生産量は、同0.7%減の88.75億ポンドと予測されている。2007年上半年期の米国における家禽肉生産量は減少するとみられているが、価格水準が比較的高いことから、下半期は生産が刺激され、全体的に見て、2007年の米国における家禽肉生産量は引き続き増加し、前年比1.09%増の361.9億ポンドに達すると予測されている。2006年の米国の家禽肉輸出量は、前年比1.1%増の52.6億ポンドで、第4四半期の輸出量は、前年同期比2.5%増の14億ポンドとなった。2007年の輸出量は引き続き増加し、前年比2.76%増の54.05億ポンドと予測されている。

2006年世界主要国の家禽肉輸出状況



資料：中国農業部

ブラジルにおける 2006 年の家禽肉生産量は、前年比 1%減の 930 万トンとなった。減少の主な理由は、鳥インフルエンザの突発により、家禽肉需要が世界的に低下し、ブラジルの輸出量が減少したことにある。2006 年の鶏肉輸出量は、前年比 8%減の 262 万トン、輸出収入は同 12.7%減の 30.65 億ドル（約 3,678 億円）となった。ブラジルの生産・輸出業界の予測によると、2007 年は鶏肉生産・輸出とも回復し、鶏肉輸出量は前年比 7%増の 280 万トン、輸出収入は同 7.7%増の 33 億ドル（約 3,960 億円）に達するとみられている。

EUでは、2006 年の鶏肉生産量は前年比 4%の減少となったが、2007 年については回復が見込まれている。一方、七面鳥については、生産量、輸出及び消費とも減少傾向にあり、輸入が増加した。しかし、七面鳥については、回復の可能性はあまり大きくないといわれている。

6 展望分析

(1) 国際情勢

米国の家禽肉生産は緩やかに増加、輸出増、価格も上昇：2007 年上半期は全体に情勢が良好で、価格についても引き続き上昇するとみられている。

日本の家禽製品の需給は安定的、価格は若干下落：日本における家禽製品の生産は徐

々に回復し、前年に比べ、生産量は明らかに増大する。気候が暖かくなるに連れ、家禽肉消費は低下傾向にあり、価格は小幅ながら下落するものとみられる。

ロシアの家禽肉価格は安定的だが、若干の下落も：ロシアでは、国内の家禽肉生産能力の増大により、2007年は輸入割当が減少した。しかし、生産増加に伴う供給増により、ロシアの国内価格は必ず反落を招くものとみられる。

(2) 国内情勢

2007年の中国の家禽肉生産量及び消費量は、依然として低基調にあるものの、その後は回復に向かうとみられている。生産者にとっては状況が上向いていると予測され、積極的な増羽意欲が非常に高いとみられている。鳥インフルエンザの発生など重大な問題がなければ、2007年における中国の家禽肉の消費・貿易、価格水準は、比較的安定的に推移するものと予測されている。